

令和3(2021)年度 新学術領域研究（研究領域提案型）（継続の研究領域）研究計画調書

令和XX年XX月XX日  
X 版

研究区分	公募研究	機関・領域・研究 項目・整理番号	00000-0000-000-0000				
研究課題番号							
研究領域	領域番号	領域略称名					
研究項目番号							
研究代表者 氏名	(フリガナ)						
	(漢字等)						
所属研究機関							
部 局							
職							
研究課題名							
研究経費 〔千円未満の 端数は切り 捨てる〕	年度	研究経費 (千円)	使用内訳(千円)				
			設備備品費	消耗品費	旅費	人件費・謝金	その他
	令和3年度						
	令和4年度						
	総計						
最も関連の 深い小区分		(1)			(2)		
	小区分						
	小区分名						
開示希望の有無							
研究代表者 連絡先	〒 (住所)						
	電話番号：	Fax番号：					
	Email：						



## 研究概要

### （1）研究目的等

新学術（公募）- 2、3（研究目的）、6（今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法）、7（これまでに受けた研究費とその成果等）、8（前回の公募研究の成果等）の内容を簡潔にまとめて記述すること。（1/2 頁程度。「研究計画・方法」と合わせて1頁以内）

### （2）研究計画・方法

新学術（公募）- 4、5（研究計画・方法）の内容を簡潔にまとめて記述すること。（1/2 頁程度。「研究目的等」と合わせて1頁以内）

## 研究目的

本欄には、研究領域の全体構想及びその中での本研究の目的について、適宜、文献を引用しつつ記述し、特に次の点については、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述すること（記述に当たっては、「公募要領に示された領域の研究概要」（公募要領 17～26 頁を参照）を踏まえるとともに、「科学研究費助成事業「新学術領域研究」の審査要綱」を参考にすること。）。

（2 頁以内）

- ① 研究の学術的背景（本研究に関連する国内・国外の研究動向及び位置付け、応募者のこれまでの研究成果を踏まえ着想に至った経緯、これまでの研究成果を発展させる場合にはその内容等）
- ② 研究期間内に、何をどこまで明らかにしようとするのか
- ③ 当該領域の計画研究との連携により、当該領域の研究の一層の推進に貢献できる点
- ④ 応募者の専門としている研究分野と当該領域の研究が有機的に結びつくことにより新たな研究の創造が期待できる点
- ⑤ 当該分野における、この研究（計画）の学術的な特色・独創的な点及び予想される結果と意義
- ⑥ 令和 3（2021）年度において継続して科研費又は科研費以外の研究費（府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費）の助成を受ける予定がある場合は、当該継続研究課題と本研究課題との相違点



## 研究計画・方法

＜令和3（2021）年度の計画と令和4（2022）年度の計画に分けて記述すること。＞

本欄には、研究目的を達成するための研究計画・方法について、令和3（2021）年度の計画と令和4（2022）年度の計画に分けて、適宜、文献を引用しつつ焦点を絞り、具体的かつ明確に記述すること。ここでは、研究が当初計画どおりに進まないときの対応など、多方面からの検討状況について記述すること。（2頁以内）

また、研究協力者が参画する場合には、研究体制の全体像を明らかにするため、必要に応じて、研究代表者の役割のほか、研究協力者（海外共同研究者、科研費への応募資格を有しない企業の研究者、その他技術者や知財専門家等の研究支援を行う者、大学院生等（氏名、員数を記入することも可））の役割についても記述すること。なお、研究期間の途中で異動や退職等により研究環境が大きく変わる場合は、研究実施場所の確保や研究実施方法等についても記述すること。



## 今回の研究計画を実施するに当たっての準備状況及び研究成果を社会・国民に発信する方法

本欄には、次の点について、焦点を絞り、具体的かつ明確に記述すること。（1頁以内）

- ①研究協力者が参画する場合には、その者との連絡調整の状況など、研究着手に向けての状況（必要に応じて記述すること。）
- ②本研究の研究成果を社会・国民に発信する方法等

## これまでに受けた研究費とその成果等

本欄には、研究代表者がこれまでに受けた研究費（科研費、所属研究機関より措置された研究費、府省・地方公共団体・研究助成法人・民間企業等からの研究費等。なお、現在受けている研究費も含む。）による研究成果等のうち、本研究の立案に生かされているものを選定し、科研費とそれ以外の研究費に分けて、次の点に留意し記述すること。（1頁以内）

- ①それぞれの研究費ごとに、研究種目名（科研費以外の研究費については資金制度名）、期間（年度）、研究課題名、研究代表者又は研究分担者の別、研究経費（直接経費）を記入の上、研究成果のほか、中間・事後評価及び研究進捗評価（当該研究費の配分機関が行うものに限る。）の結果を簡潔に記述すること。
- ②科研費とそれ以外の研究費は線を引いて区別して記述すること。

## 前回の公募研究の成果等

本欄には、平成30(2018)年度開始の研究領域における公募研究に採択された研究者が、同一領域の公募研究に応募する場合、前回の研究成果や領域の推進への貢献状況について記述すること。なお、前記に該当しない場合は「該当なし」と記載すること。  
(1頁以内)

注) 公募研究の研究期間は2年間(領域設定期間の2～3年目及び4～5年目)で、領域設定期間の1年目と3年目に当たる時期に公募が行われます。

**人権の保護及び法令等の遵守への対応**（公募要領4頁参照）

本欄には、本研究を遂行するに当たって、相手方の同意・協力を必要とする研究、個人情報の取扱いの配慮を必要とする研究、生命倫理・安全対策に対する取組を必要とする研究など指針・法令等（国際共同研究を行う国・地域の指針・法令等を含む）に基づく手続が必要な研究が含まれている場合、講じる対策と措置を、1頁以内で記述すること。

個人情報を伴うアンケート調査・インタビュー調査・行動調査（個人履歴・映像を含む）、提供を受けた試料の使用、ヒト遺伝子解析研究、遺伝子組換え実験、動物実験など、研究機関内外の倫理委員会等における承認手続が必要となる調査・研究・実験などが対象となります。

該当しない場合には、その旨記述すること。

## 応募者の研究遂行能力及び研究環境

本欄には応募者（研究代表者）の研究計画の実行可能性を示すため、(1)これまでの研究活動、(2)研究環境（研究遂行に必要な研究施設・設備・研究資料等を含む）について2頁以内で記述すること。

「(1)これまでの研究活動」の記述には、研究活動を中断していた期間がある場合にはその説明などを含めてもよい。

### ※留意事項

1. 研究業績（論文、著書、産業財産権、招待講演等）は、網羅的に記載するのではなく、本研究計画の実行可能性を説明する上で、その根拠となる文献等の主要なものを適宜記載すること。
2. 研究業績の記述に当たっては、当該研究業績を同定するに十分な情報を記載すること。  
例として、学術論文の場合は論文名、著者名、掲載誌名、巻号や頁等、発表年（西暦）、著書の場合はその書誌情報、など。
3. 論文は、既に掲載されているもの又は掲載が確定しているものに限って記載すること。
4. 本留意事項（斜体の文書）は、研究計画調書の作成時には削除すること。







(1) 応募中の研究費

研究者氏名					
資金制度・研究費名（研究期間・配分機関等名）	研究課題名（研究代表者氏名）	役割	令和3年度の研究経費（期間全体の額）	令和3年度エフオ-ト（%）	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由（科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額）
			(千円)		

(2) 受入予定の研究費

資金制度・研究費名(研究期間・配分機関等名)	研究課題名(研究代表者氏名)	役割	令和3年度の研究経費(期間全体の額)	令和3年度エフォート(%)	研究内容の相違点及び他の研究費に加えて本応募研究課題に応募する理由(科研費の研究代表者の場合は、研究期間全体の受入額)
			(千円)		
(3) その他の活動					
合 計				(%)	